

出前授業を東京都多摩市の小学校にて実施 ～海運や船員の仕事について紹介～

当協会は、日本の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業の重要性を学校教育において取り上げていただくよう、商船や海事施設等の見学会や授業への協力、資料提供等を実施しております。今般、東京都多摩市帝京大学小学校において、9月15日（水）に（一社）日本船長協会と協力し、海運や船員の仕事について出前授業を行いましたので授業の様子をお知らせします。



児童たちに日本の貿易量の何%を船が運んでいるか質問。70%程度であるとの回答が多いなか、正解は99.6%である事を紹介。一部の児童からは驚きの声があがった。（貿易額であれば70%程度で正解であることを補足）

日常生活に必要な様々な物が船で運ばれていることを紹介。



外国産のグミを配布し、船はどのような航路で、日本までこのグミを運んできているのか児童たちに予想してもらった。

多くの児童が南アフリカを経由する航路を予想するなか、正解はスエズ運河を通る航路であることを紹介。また、アメリカ東海岸から輸送する場合も例に挙げ、パナマ運河を経由することを説明し、海上航路でも色々な工夫がされていることを伝えた。





後半は船長が登場し、船に関する事や船員の仕事、船上での生活等について紹介。

コンテナ船の長さは、同小学校の校舎の長さと比較し説明。
 (コンテナ船は校舎の3.5倍の長さ！)



船上では釣り、ゲームや筋トレ等様々な娯楽もあることを紹介。

質問コーナーでは、「3交代制のなかで、それぞれの時間帯に勤務する航海士の役職が決まっている理由」「船員になろうと思った理由」等、様々な質問が児童よりあがった。



ロープワーク体験も実施。
 最後は家庭でも海運に関する理解を深めていただけるようDVD「日本の海運」等資料を配布し終了。

当協会では、今後もわが国の暮らしと産業を支える海事産業を広く知っていただくための活動を展開してまいります。

以上